郷土芸能を有する農村集落における集落行事に対する住民意識

—青森県平川市平賀地区を対象として—

Resident's Attitude Toward Community Events Which includes Local Entertainments.

—Case study on Hiraka Area, Aomori Pref. —

齋藤 朱未* 藤崎 浩幸**

SAITOU Akemi* FUJISAKI Hiroyuki**

(*弘前大学大学院農学生命科学研究科 **弘前大学農学生命科学部)

(*Graduate School of Agriculture & Life Science, HIROSAKI University **Faculty of Agriculture & Life Science, HIROSAKI University)

I 研究の背景と目的

農村集落には道路・水路の管理、子ども会や老人会の行事、祭礼行事、郷土芸能といった集落行事がある。これらの行事のほとんどは従来から行われてきたものであるが、近年の都市化等の影響により停滞傾向にある。しかしながら、星野¹⁾によると集落行事に対する住民の満足度は定住意向と強く関係しており、定住意向の向上に対して無視することのできない要因であるという。また、白石ら²⁾によると、地域活動を発展させるためには、子供や若者が古くからの地域の誇りや、伝統文化などの継承活動を行うことが大切であるという。そのためにも、地域活動への積極的な参加を得ることが大切となり、その方策として各世代に役割を担わせる必要性を斎藤ら³⁾が示している。

そこで本研究では、青森県津軽地方で、津軽獅子舞(踊)とねぶたという郷土芸能が集落を主体に行われていることを踏まえ、これらが他の集落行事と比べてどのように住民に意識されているのかを明らかにすること、また、既往の研究にない視点として子供の集落行事に対する意識を大人と対比すること、集落行事への参加要因や集落の好悪と関係を個人単位で分析することを目的とした。

ここで、津軽獅子舞(踊)とねぶたについて概説しておく。

津軽獅子舞(踊)は江戸時代に津軽藩領主が京都の巻物を再現させたとされる郷土芸能であり、集落単位で保存会を構成しているところが多い。三匹の獅子とオカシと呼ばれる道化役をそれぞれ1人ずつ担当する“踊り方”と、太鼓・笛・摺鉦の“囃子方”で構成される。踊りは10演目程度あり、旧盆頃に集落の各戸を廻ったり、公民館祭りや慶事で踊ったり、県下競演会が開催されたりしている。伝統を守るために踊りの型はもちろん、使っている道具のデザインや衣装のデザインでさき昔のままの

ものを用いており、変えることが困難である。踊りの習熟に要する時間も、獅子舞(踊)は基礎である全体の流れだけなら1年で習得できるが、きちんと踊れるようになるには3・5年を要する。囃子も一通り覚えるのに曲数の多さや曲順等の関係でやはり1年以上は要する。

一方のねぶたは、観光行事として有名な弘前ねぶたに限らず、いたるところで夏祭りとして行われる。起源は諸説あり古い、時代に応じてその形式が変化しており、昭和の頃には集落ごとに中学生くらいの年長の子供を中心に、年下の子供やねぶた好きな大人が手伝いながら大きな扇形の灯籠であるねぶたを製作し、ねぶた囃子の練習をし、祭り当日には自由に集落内外を練り歩くということが広く行われていた。しかし、ここ30年くらいの間に多くの市町村で観光行事として合同運行を行うようになってから、大人が運営の主導権を持ち、集落を地区外にアピールするものへと変質してきている。囃子の笛、太鼓などでも2ヶ月程の練習で出来るようになり、踊りに参加せず、運行のみの場合は、当日参加するだけで良いことから、獅子舞(踊)ほど準備や練習に時間はかからない。踊りがつく場合も、集落単位で創作した踊りが多く、花笠踊やよさこい踊の要素を取り入れたりと多種多様で、1集落で2種類の踊りを有するところもある。

II 調査概要

まず、調査対象集落を獅子舞(踊)やねぶたを行う集落が多い青森県平川市平賀地区(旧平賀町)から選定した。次に調査集落の各町会長から、集落や集落行事の概要について聞き取り調査を行った。そして、その集落住民に集落行事についてのアンケート調査を実施した。

平賀地区は津軽地方の南に位置し、りんごと水稲生産が盛んな農村である。多くの獅子舞(踊)保存会が存在する町で、かつては青森県107保存会中の14獅子舞(踊)

表1 対象集落概要とアンケート回収率

集 落	A1	A2	R1	R2	H
立地の特徴	りんご園地帯	りんご園地帯	水田地帯	水田地帯	新住宅地
農家率 (%)	36	65	35	26	—
町中心駅までの距離	4km	7km	2km	2km	1km
世帯数	394	231	293	115	337
調査対象世帯数	43	29	18	6 ^{注1)}	52
配布部数	192	125	65	12 ^{注1)}	153
有効回答部数	85	67	27	12	68
回収率 (%)	44	54	42	100	44

表2 回答者概要

集落 (人)		A1	A2	R1	R2	H	合計
世 代	子供	20	18	7	6	28	79
	父母	39	28	14	4	35	109
	祖父母	28	21	10	2	8	71
性 別	男	41	36	11	9	34	131
	女	43	31	16	3	34	127
合計		87	67	31	12	71	259

保存会があり、現在でも県下 52 保存会中 7 保存会が存在している(平成 14 年調べ)。これと同時にねぶたも盛んで平成 19 年の平賀ねぶた市合同運行には 39 集落(町会)中 19 集落が参加しており、他に集落内のみ運行している町会も存在する。

調査対象集落の選定については、まず平賀地区の全集落について平川市役所からその活動概要を聞き取り調査した。そして表 1 に示すように、獅子舞(踊)保存会が現存する集落として平賀市街地近くの水田地帯から R1 と R2、リンゴ園地帯から A1 と A2 の各 2 地区、さらにこれらと対比するため町が開発した住宅団地への転入者が平成 4 年に町会を設立した H 地区を選定した。

次にアンケート調査について、調査対象者として子世代は小中学校の児童生徒名簿から対象集落の小学 5 - 中学 2 年の全員とし、大人は子世代と同居する父母・祖父母を選定した。

調査用紙は 2007 年 12 月に戸別訪問して配布し約 1 週間留め置き後、戸別に訪問回収した。回収率は表 1 に示す通りで、子供 79 人、父母 109 人、祖父母 71 人の 259 人から有効回答を得られた^{注1)}(表 2)。

調査対象とする集落行事は、各集落の町会長からの聞

き取りを踏まえ、次章で説明する 9 種類とした^{注 2)}。ただし「部会」「老人会」については、子世代がその活動をほとんど知らないものと判断し、

子世代は調査対象から除外している。調査項目は、集落行事ごとに『集落への効果』『集落での必要度』『回答者自身の参加度』『回答者自身の参加意義』『回答者自身の参加への面倒さ』『行事への満足度』を問うた^{注3)}。

獅子舞(踊)に関しては保存会には多くの人を必要としないことや、住民への浸透度や保存会存続に対する危機があったため、他の行事と扱いを別にして、『回答者自身の参加度』の代わりに獅子舞(踊)を見に行く『関心的参加度』と実際に演じる『保存会への参加』の 2 通りで問い、『行事への満足度』は問うていない。このため、獅子舞(踊)の『参加度』『満足度』にかかわる分析値については他の行事と直接の対比はできない。

また、回答者属性として年齢、性別、職業等、居住集落への好悪感などを問うている。

III 各集落の集落行事の状況

町会長からの聞き取り調査に基づき集落行事の実施状況を整理したのが表 3 である。アンケート調査では、集落にある神社の宵宮や新嘗祭などは「祭礼」、青(成)年部や婦人会は「部会」というように表左端の 9 種類に集約している。

A1 集落ではねぶたを他集落のように子ども会が主体となっていくのではなく、町会が直接ねぶたの実行委員会に関与している。また、子供に地元の理解、愛着を育成することを目的とした地元っ子塾も行われている。

表3 集落行事の実施状況

集落名	A1	A2	R1	R2	H
獅子舞(踊)	保存会あり	保存会／子供組あり	保存会／子供組／登山囃子あり	保存会あり(2年間活動休止)	保存会なし
ねぶた	町会主導／合同運行に参加	合同運行に参加	合同運行に参加	町会内のみ運行	合同運行に参加
祭礼	宵宮	宵宮・新嘗祭 厄払い・除夜祭	宵宮 春・秋の神社の大祭	春の厄払い 宵宮・新嘗祭	神社なし
文化・交流	公民館まつり	公民館まつり	納涼祭	公民館まつり	納涼祭
子ども会	有	有	有	有	有
部会	青年部・婦人部	青年部・若妻会・婦人会	青年部・若妻会・婦人会	青年部・若妻会・婦人会	成年部・若妻会・婦人会
老人会	有	有	有	有	有
環境整備	清掃活動 花壇の手入れ	清掃活動 花壇の手入れ	清掃活動	清掃活動 水路の泥上げ	清掃活動 側溝・融雪溝の泥上げ
防犯・安全	消防の夜警	消防の夜警	冬の雪下ろし活動	冬の雪下ろし活動	なし
その他	地元っ子塾	小学校運動会支援	なし	小学校運動会支援	なし

表4 各集落行事の集落への効果・自身の参加意義・面倒さに対する住民意識

項目	集落への効果						自身の参加意義						自身の参加の面倒さ						
	交流の機会	助け合いの向上	地元再認識	レクの増加	伝統・文化の創造	環境づくり	交流を深める	助け合いの強化	地元再認識	楽しい時間	地区の良さ増加	周囲の美化	用事が増える	近所づきあいが面倒	ゆとりの減少	おもしろくない	伝統・文化が重荷	体が疲れる	面倒な気持ちはない
集落行事																			
獅子舞(踊)	CPG		C G		CPG		CPG		P		C G		CPG	C		G C	C G	C G	G
ねぶた	CPG				CP		PG		P	C			PG		P			PG	CP
祭礼	PG		G		CPG		CPG		CPG	C									
文化・交流	CPG			P			CPG			CPG			P						
子ども会	CPG			CPG			CPG			CP			CPG		C				
部会*	PG						PG						P						P
老人会*	PG			G			PG			G								G	PG
環境整備	PG	PG				CPG	PG	PG				CP	CPG					CP	
防犯・安全	PG	PG				CPG	PG	CPG					CPG					C	

注) * 子世代なし

* 全体：セルの濃さで表す

ただし面倒さに関しては

世代別 C (子供) P (父母) G (祖父母) の文字表現であらわす

・回答率が低く、表から省いた項目は『集落への効果』では「地区らしさの増加」、『自身の参加意義』では「自分の知識・能力の向上」「自分の知識・能力の活用」、『自身の参加の面倒さ』では「地区が嫌になる」「お金がかかる」である。

回答率80%以上

20-39%

回答率80%以上

20%未満

60-79%

40-59%

60-70%

40%未満

40%未満

20%未満

40%未満

40%未満

A2 集落は、獅子舞(踊)保存会に上演に携わらない会員が存在し、子供組(子供だけでの上演)も行っている。小学校の運動会運営に集落が関与している。R1 集落は、獅子舞(踊)に子供組がある他に、登山囃も含めた「獅子踊等保存会」として活動を行っている。R2 集落では、他集落が祭礼を氏子総代が行うのに対し、町会が主催となって行っている。他に比べ老人会、青年部、婦人会など部会の活動が盛んで、公民館まつり等に積極的な関与がみられる。

H 集落は転入者で成り立つ住宅地であることから、集落内の住民相互の顔合わせのきっかけづくりとして、納涼祭やねぶた合同運行といった子供を中心に大人まで大勢が参加できる行事づくりを行っている。このため、神社が存在しないために祭礼がないことを除くと、他集落と集落行事の実施状況に大きな差はなかった。

IV 集落行事に対する住民意識

1 集落行事に対する住民意識の全体と世代別傾向

対象集落の選定において新興集落のH集落を選定したが、町会運営の努力のためか、アンケート結果でも他集落と異なる結果を得ることができなかった。そのため、本論では集落ごとの分析について述べないこととした。

まず、集落行事の『集落への効果』について「交流の機会」から「環境づくり」までの項目について、複数回答で問うた結果を表4に示した。「地区らしさ増加」に関しては、すべての行事で全体、各世代とも回答率40%未満だったので表4からは省いた。

全体でみると、ねぶた、文化・交流など多くの行事で「交流の機会」が6・7割となっている。「伝統・文化の創造」では獅子舞(踊)が80%、祭礼が51%、「よりよい環境をつくる」で環境整備が63%、防犯・安全が49%、「助

け合いの気持ちの向上」に環境整備45%と防犯・安全が50%となっていることから、いずれの集落行事もその行事に対応した効果をかなりの住民が見出していることがうかがえる。また、世代別にみた場合においても、全体傾向とほとんど相違がみられなかった。

次に『自身の参加意義』として自分自身が集落行事に参加した際の意義を「交流を深める」から「周囲の美化」まで8項目を複数回答で問うたところ、ほとんどの行事が「交流を深める」に6・7割となっており、『集落への効果』と類似した結果となっている。世代別では、父母・祖父母は全体と同じような傾向がみられたが、子供が楽しい時間を過ごすことに意義を見出しているといった違いがみられた。

逆に『自身の参加の面倒さ』について「用事が増える」から「お金がかかる」までの8項目または「面倒な気持ちはない」を複数回答で問うたところ、全体では獅子舞(踊)を除くすべての行事で「面倒な気持ちはない」という人が4割前後と最も多い。祭礼、老人会以外の7種類の行事では2・3割の人が「用事が増える」という面倒さを意識している。また、加えて、ねぶたでは「ゆとりの減少」、環境整備では「体が疲れる」という面倒さも2・3割が意識し、獅子舞(踊)では「用事が増える」「ゆとりの減少」「体が疲れる」に加え、「伝統・文化が重荷」も26%が意識しており、他の行事以上に面倒さを感じていることがわかる。世代別でみた場合、祖父母が獅子舞(踊)に面倒な気持ちがなく、ねぶたを面倒に考えている。また、子供会、部会に対しても面倒に感じていない点で他と異なる。

そこで『回答者自身の参加度』についてみると、表5に示したように5割以上参加する人の合計が4割前後存在する行事は、ねぶた、子ども会、文化・交流、環境整備、祭礼が挙げられる。世代別でみると、子供がねぶた

表5 回答者自身の参加度(%)

項目	項目	全体	世代		
			子供	父母	祖父母
回答者自身の参加度 「8割以上」 「5～7割」参加の 合計比率	獅子舞(踊)*	—	—	—	—
	ねぶた	46	62	49	17
	祭礼	37	57	27	33
	文化・交流	48	67	45	28
	子ども会	44	68	44	13
	部会	18	—**	18	18
	老人会	13	—**	4	32
	環境整備 防犯・安全	41 14	27 14	44 11	55 18

注) * 獅子舞(踊)の参加度は表6に示す

** 子世代には設問なし

表6 獅子舞(踊)への参加度(%)

関心的参加	全体	子供	父母	祖父母
なるべく見たい	25	10	27	35
たまに見たい	51	55	52	46
あまり見たくない	13	22	9	9
見たくない	5	10	5	0
保存会への参加	全体	子供	父母	祖父母
参加している	5	6	5	4
かつて参加していた	2	2	2	0
まだ参加していないが、 参加しても良い	12	20	11	6
まだ参加していないし、 参加するつもりもない	72	73	67	78

表7 回答者自身の満足度/集落にとっての必要度(%)

項目	項目	全体	世代		
			子供	父母	祖父母
回答者自身の満足度 「満足」「やや満足」の合計比率	獅子舞(踊)*	—	—	—	—
	ねぶた	83	86	83	80
	祭礼	80	88	76	81
	文化・交流	78	85	76	75
	子ども会	80	85	79	77
	部会	61	—**	63	57
	老人会	60	—**	58	65
	環境整備 防犯・安全	76 72	78 81	75 65	77 78
集落にとっての必要度 「もっと充実」「少し充実」させる 必要性の合計比率	獅子舞(踊)*	28	26	29	27
	ねぶた	31	39	31	20
	祭礼	28	43	20	25
	文化・交流	33	43	27	32
	子ども会	33	34	29	38
	部会	28	—**	23	37
	老人会	22	—**	15	37
	環境整備 防犯・安全	31 36	34 44	24 26	33 43

注) * 獅子舞(踊)には設問なし

** 子世代には設問なし

や祭礼、文化・交流に高くなっている。津軽地方では宵宮に露店がでるため、祭礼に子供が多く参加しているということが考えられる。祖父母では子供会やねぶたで参加が低く、環境整備で高くなっている。老人会への参加もあまり高くない。そして父母の参加度は子供と祖父母の中間に位置しており、子供の付き添いや行事の運営に関わっている世代であるためと考えられる。また、獅子舞(踊)では表6のように獅子舞(踊)を見に行く程度の『関心的参加』は「たまに見たい」人が5割と比較的あるものの、実際に『保存会への参加』で参加度をみた場

合には7割が否定的である。この傾向は世代別でもみられ、特に子供にいたっては、『関心的参加』で「あまり見たくない」に2割と父母・祖父母より割合が高くなっている。

『各行事への満足度』と『集落での必要度』を示したのが表7である。

回答者自身の『各行事への満足度』に関しては、全体としても世代別としても、概ね満足している傾向が見受けられた。

最後に、これらの集落行事への『集落での必要度』を問うた。すべての行事に対して充実を求める人が3割で、表には示されていないが、獅子舞(踊)以外の行事では「ちょうどよい」と6割前後が回答していて、いずれの行事も集落にとって必要なものとみていることがわかる。ただし、獅子舞(踊)には「あまり必要でない」が2割と他と比べて極立って多く存在した。世代別で充実の必要性をみた場合、子供が4割、父母が2・3割、祖父母が3割と、子供の方がその必要性を強く感じていることが見受けられた。

2 獅子舞(踊)とねぶた

獅子舞(踊)とねぶたは、ともに郷土芸能で囃子に用いる楽器も同一であるが、『保存会への参加』や『集落への効果』には大きく異なる傾向があった。これは2つの郷土芸能の性格の差、すなわちA1獅子舞(踊)保存会会長の言によると、獅子舞(踊)は敷居が高く深く極めるもの、ねぶたは取り組みやすく大勢で騒ぐものという違いを反映したものと考えられた。

獅子舞(踊)保存会への参加意欲については、子供はねぶたほどではないものの、父母・祖父母世代より参加に対して前向きで、獅子舞(踊)保存会の存続に十分な人数が存在していることがわかった。しかしながら、小学校で保存会に参加していても、中学・高校での部活動や高校卒業後の就職の関係上、獅子舞(踊)の練習に参加することが出来なくなり、保存会を退会することもあるようで、今後、安心できるというわけではない。さらに、関心度が強い人は父母・祖父母より少なく、子供への浸透に努力が必要である。

3 集落行事への参加要因

回答者がその行事を必要と考えているほど行事に参加する、あるいは自身が満足する行事に参加するかどうかを検討するために『集落での必要度』『自身の満足度』と『自身の参加度』(獅子舞(踊)は『関心的参加度』)をそれぞれ数値化し^{注4)}、相関係数を求めた結果が表8である。これをみてみると、子供の獅子舞(踊)で、その行事の必要性を感じているから参加する(ただし、関心的参加)、子供の子供会、文化・交流、祭礼でその行事に満

足できるから参加するといった傾向がうかがえるものの、全体として「集落に必要だから参加」「自分が満足しているから参加」とは言い難い結果であった。

4 居住集落への好悪感と集落行事への意識

自分の集落について好きか嫌いかを5段階で質問した。全体では「好き」が36%、「やや好き」が34%で、「好き」に関しては、子供47%、祖父母42%と最多である

表8 集落行事の必要度／自身の満足度と参加度との相関係数

世代	項目	相関係数		
		参加度	必要度	満足度
子供	獅子舞(踊)	0.03	0.20	—
	ねぶた	0.15	0.09	0.36
	祭礼	0.06	0.08	0.23
	文化・交流	0.28*	0.18	0.41**
	子ども会	0.02	0.01	0.47**
	環境整備	0.02	0.07	0.02
	防犯・安全	0.16	0.07	0.04
父母・祖父母	獅子舞(踊)	0.02	0.10	—
	ねぶた	0.15	0.12	0.48**
	祭礼	0.21*	0.03	0.16
	文化・交流	0.20*	0.01	0.41**
	子ども会	0.09	0.02	0.27**
	部会	0.12	0.04	0.40**
	老人会	0.11	0.02	0.32**
	環境整備	0.06	0.05	0.29**
	防犯・安全	0.02	0.07	0.38**

注) ** 1%有意 * 5%有意

獅子舞(踊)の参加度に関しては「関心的参加度」を用いた。また「満足度」は設問がない。

表9 集落への好悪感と集落行事の自身の参加度／満足度／必要度との相関係数

世代	項目	相関係数		
		参加度	必要度	満足度
子供	獅子舞(踊)	0.03	0.20	—
	ねぶた	0.15	0.09	0.36
	祭礼	0.06	0.08	0.23
	文化・交流	0.28*	0.18	0.41**
	子ども会	0.02	0.01	0.47**
	環境整備	0.02	0.07	0.02
	防犯・安全	0.16	0.07	0.04
父母・祖父母	獅子舞(踊)	0.02	0.10	—
	ねぶた	0.15	0.12	0.48**
	祭礼	0.21*	0.03	0.16
	文化・交流	0.20*	0.01	0.41**
	子ども会	0.09	0.02	0.27**
	部会	0.12	0.04	0.40**
	老人会	0.11	0.02	0.32**
	環境整備	0.06	0.05	0.29**
	防犯・安全	0.02	0.07	0.38**

注) ** 1%有意 * 5%有意

獅子舞(踊)の参加度に関しては「関心的参加度」を用いた。また「満足度」は設問がない。

のに、父母は「やや好き」が41%で最多である。この集落への好悪感を-2から2点とし、同様に『自身の参加度』『集落での必要度』も数値化して単相関係数を示したものが表9である。これをみると全体に集落への好悪感と『参加度』『必要度』については有意ではないものの相関が見られず、自分の集落が好きだから集落行事に参加するか、自分の集落が好きだから集落行事を充実させたいという傾向はない。しかし『満足度』については主に大人で有意な相関が多少存在し、大人と子供の文化・交流、子供の子供会、大人のねぶたでは、集落を好きと回答している人ほどその行事に満足していることがうかがえた。

V まとめ

今回の調査では、どの集落行事も住民交流など集落への効果を住民は意識しており、その必要性を認識していた。しかし一方で、必要性の認識と自分自身の行事への参加とは別で、集落行事に関わると用事が増える等から、必要性を感じるからといって、集落行事に参加しているわけではないことがわかった。

また、自身への参加意義について、大人は住民交流を中心に意識しているのに対し、子供は自分の楽しさを中心に意識していた。そして自身の満足度と参加度について、子供では満足度の高いものほど参加度も高い傾向が一部でうかがえたが、大人については満足度が高いから集落行事に参加しているというわけではなかった。

そして、自分の集落に対する好き嫌いは、集落行事の必要性の認識や自身の参加度とは関係がなかった。しかし、部分的には集落を好きな者ほど集落行事への満足度が高い傾向がうかがえ、星野¹⁾が集落行事全体の満足度が高いものほど定住意向が強いと明らかにしたことと符合した。

獅子舞(踊)については、どの世代も活動の意義を感じているものの、他の集落行事と大きく異なり面倒さを強く感じているため、実際に保存会への参加にはつながらない。とはいえ、子供に保存会への参加意欲のある人が2割も存在することから、この気持ちをうまく取り込む工夫が望まれる。そのためには、かたくなに伝統を守るだけではなく、獅子舞(踊)の装束をねぶたに持ち込み伝統を基礎にした踊りをその中で披露するなど、奥深さの中に楽しさを感じさせる斬新な工夫等で、新たな魅力を発信することが必要であろう。

また、もう一つの郷土芸能であるねぶたでは、獅子舞(踊)と対照的に文化・交流等の行事と並んで参加度が最も高い行事の1つとなっている。このことは、子供を

中心に大人まで多様な世代が大勢参加し交流できる集落行事というものが住民にとって何より大切であることを示唆しているものと考えられ、白石らや斎藤らの報告と共通する結果である。新興集落のH地区で納涼祭やねぶたに熱心に取り組み、他地区との差がなかったことも、このことの1つの証左であろう。

星野¹⁾は高い満足度の集落行事ほど参加度が高く、見直し意向が弱いとしていたが、本研究からは、個人がある集落行事に参加するかどうかは行事の必要度や自身の満足度とあまり相関がないことが、特に大人において明かとなった。今後、集落行事への参加や満足がどのように形成されるかについては、各行事の細かい内容や運営方法などを踏まえた調査が必要であろう。

さらに、今回、星野¹⁾のように住民の定住意向と関連させて分析するには至らなかったが、混住化した現代の農村では、普段は最寄の都市に通勤している住民に、いかに集落活動に参加してもらうかは大きな問題であり、今後、定住意向やライフスタイルを含めた集落行事のあり方の検討が望まれる。

【注釈】

注1) R2 集落は町会長指定の人を調査対象とし、会長が配布・回収を行った。

注2) R2 集落のねぶた合同運行、H 集落の獅子舞(踊)と祭礼ではその行事が行われていないので、“もし、そのような行事があったとしたら”という仮定で同様の調査を行っている。しかし、このデータは特記する場合を除き、以降の集計には用いていない。

注3) 部会、老人会は父母・祖父母世代のみ回答。

注4) 必要度：「もっと充実」5, 「少し充実」4, 「ちょうどよい」3, 「あまり必要ない」2, 「必要ない」1 / 自身の満足度：「満足」4, 「やや満足」3, 「やや不満」2, 「不満」1 / 参加度：「8割以上」4, 「5-7割」3, 「3-4割」2, 「2割未満」1

【引用文献】

- 1) 星野敏(1999)：集落行事・生活慣習の見直しに関する計画論的研究。農村計画学会誌，18巻，211-216
- 2) 白石浩司・藍澤宏・菅原麻衣子・斎藤亮司(2004)：住民各世代の地域活動からみた中山間地域の活性化要件。農村計画学会誌，第6集，175-180
- 3) 斎藤亮司・藍澤宏(2002)：農村地域における地域資源活用からみた住民参画の様態に関する研究。日本建築学会計画論文集，第555号，223-229

Summary

We surveyed the residents' attitude toward community events which includes NEPUTA (Large lantern festival) and SHISHI-MAI (traditional lion dance) in Hiraka area , Hirakawa city , Aomori prefecture. As the result , Residents feel the meaning and necessity of every community events, even so they sometimes don't participate in them because of the troublesome feeling, especially in SISI-MAI. And adults mainly think the community events promote the communication among residents, on the other children have a pleasant time through them.

(2008年5月16日 受付)

(2008年11月29日 受理)